

技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも技術の原理・法則と仕組み、技術による問題解決、社会発展と技術で構成され、導入における「技術の最適化」で技術の見方、考え方に気付けるようにしている。本文の内容を裏づける図などを掲載して科学的な思考に基づく知識と技術が習得できるよう工夫している。全編において、問題の発見と課題の設定を設け、主体的に問題を見だし、柔軟に問題解決に取り組めるようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その知識を活用しながら「技術の工夫を読み取ろう」、「問題を発見し、課題を設定しよう」という学習内容で構成されている。また、学習の流れを「問題解決カード」として該当頁の上部に表記している。そして、第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「最適化の窓」「技術の工夫」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末には、技術と生活や社会、環境との関わりを資料や図、グラフ等を使用し、持続可能な社会の実現へと結びつけられるよう工夫している。 ○巻末には、技術分野の学習を通して、学んだことを生かし、将来や次代のための技術、地球環境についての未来について取り組めるよう工夫している。 ○Society 5.0を支える技術の紹介やSDGsが目指す持続可能な未来へ向けて技術をどのように活用していくか、考えられるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考えたり、これからの技術の改良・応用について考えたりできるよう配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○生徒の発達の段階、学校や地域の実態などによって選択できるように、豊富な問題解決例と資料を取り上げている。 </p> <p> ○多様なマークを使い、学習のポイントや関連するページやカリキュラムマネジメントが分かるようにし、ページ下には「技術の工夫」として、豆知識を掲載している。 </p> <p> ○巻末には四つの技術を結びつける総合的な問題解決ページを掲載している。また、コンピュータの基本操作と共に「今すぐできるプログラミング手帳」が別冊で付属している。 </p> <p> ○QRコードが各内容の最初にあり、ポイントとなる資料や動画などを見ることができる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○タイトルや見出しの背景部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。 </p> <p> ○簡単なプログラミングを体験できるよう「プログラミング手帳」を別冊付録にしている。 </p>	

書名 項目	N e w 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」で編集され、3ステップによる学習の流れで構成されている。「みつける」では対話式で興味を引き出すとともに、技術的な見方・考え方を身につけさせ、「学ぶ」で理解し、「振り返る」で考えを深め、次の学習への準備へ接続できるよう工夫している。また別冊が付属し、基礎的な知識や技能をまとめた「技術ハンドブック」を利用することができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、第2章で設計や計画について具体的な製作例（各題材例につき4～6頁）をもとに学習する構成になっている。そして、第1章と第2章の最後に「学んだことをまとめよう」を取り上げ、箇条書きで項目ごとに自分たちの学習過程を振り返らせている。巻末には4内容の設計計画表の例が掲載されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「やってみよう」「まとめ問題」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末では、各内容の技術のプラス面、マイナス面を提示し、持続可能な社会の実現につながるよう、生徒自身の問題として捉えられるよう資料を工夫している。 ○日本の伝統的な技術やコンテストなども取り上げ社会とのつながりを意識づけている。また、身近な取り組み例や生活、社会の問題点について解決できるように工夫している。 ○Society 5.0やSDGsなどを取り上げ、未来の社会を創造するという意識が持てるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考え、まとめでは技術の役割や活用、発展について考えられるよう配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○段階に応じた実習題材を配し、基礎内容をまとめた別冊ハンドブックや計画表を利用することで実践に役立つ知識や技能の習得ができるようにしている。 </p> <p> ○目立つロゴやマークを配置し、学習のポイントを分かりやすく示している。また、各内容それぞれにおいて、設計・計画できるワークシートが付属している。 </p> <p> ○各内容で学んだ技術を組み合わせて問題解決に取り組める「夢をかなえる技術」編を提示し、身近な問題点を考え、改善のきっかけとなる資料を特集している。 </p> <p> ○QRコードが各ポイントにあり、関連した資料やプログラムなどを見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○重要語句は色を変えて強調し、資料との関連はすべて本文の説明と関連付けて示している。また、他教科との関連は各章の最初に示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」のまとまりで構成されている。 </p> <p> ○基礎技能を、実習時に手軽に持ち運べるよう別冊「技術ハンドブック」にまとめている。 </p>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも見方・考え方に「気づく」、見方・考え方を「はたらかせる」、振り返り「定着させる」で構成されている。導入部分で具体的な製品を示し、技術の見方・考え方を解説して、課題を提示している。科学的な原理や仕組みをおさえた解説や深めた実験を配置して理解が深まるよう工夫している。各内容の出口にはこれからの技術や学習のまとめがあり、技術への関心や課題意識をもてるよう工夫している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順(内容A)」、「技術による問題解決(内容BCD)」について学習する構成になっている。また、どの内容も学習の流れを「問題解決の流れ」として見開きで表記している。そして、第3章のはじめに「学習を振り返ろう」を取り上げ、技術と生活や社会、環境との関わりと関連させながら学習する構成になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「私たちの未来」「学習をふり返ろう」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容ともに各界で活躍する人や企業を取り上げたり特色ある活動の地域を紹介したりし、身近な技術について興味を持てるよう工夫している。 ○社会で行われている企業のものづくりの順序と学習の順序とを関連づけ、PDCAサイクルとともに示し、まとめでは、キーワードで振り返られるよう工夫している。 ○実習例においてもPDCAサイクルを意識した実習の構成になっていて、学習した内容が社会へと繋がるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、これまでの学習をふり返り、技術の見方・考え方について考えたり、技術の役割やこれからについて考えたりできるよう配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○地域や学校事情等に適合するよう、各内容で複数の実習例を提示し、トレードオフと最適化に気付かせるようにしている。 </p> <p> ○学習のポイントや関連するページ、カリキュラムマネジメントが一目で分かるマーク類を多数用いている。また、ページ上下には豆知識や関連工具などの写真を掲載している。 </p> <p> ○各内容の始めには技術の歴史のページがあり、巻末資料には技術分野の学習を振り返る特集やコンピュータの基本操作が掲載されている。 </p> <p> ○QRコードが各ポイントにあり、関連した動画やコンテンツを見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○タイトルの背景部分や見出し部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「技術・技能の基礎・基本」、「問題発見、計画立案、活動の評価・改善」、「技術の評価・活用」のまとまりで構成される。 </p> <p> ○言葉の判別がしやすくなるよう改行のしかたを工夫している箇所がある。 </p>	

技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302

○項目別ページ数について

< A 材料と加工の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術	18	24	22
(2) 材料と加工の技術による問題の解決	40	48	44
(3) 社会の発展と材料と加工の技術	8	4	4

< B 生物育成の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える生物育成の技術	12	12	18
(2) 生物育成の技術による問題の解決	28	32	20
(3) 社会の発展と生物育成の技術	6	4	4

< C エネルギー変換の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	30	32	36
(2) エネルギー変換の技術による問題の解決	20	30	10
(3) 社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

< D 情報の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える情報の技術	20	32	42
(2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	16	36	10
(3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決	16	20	12
(4) 社会の発展と情報の技術	6	4	4

○キャリア教育との関連にかかわる箇所

東書	20	建築家 養殖業 ネジ製造業 人工知能研究 学んだことを社会に生かす
教図	14	寄木細工職人 農業・野菜ソムリエ 航空機整備サポート ソフトエンジニア 先輩からのメッセージ
開隆堂	11	椅子製作 6次産業化 アシストギヤ開発 ゲームアプリ開発 私たちの未来へつなげよう

○企業などとの連携にかかわる箇所

東書	24	強化プラスチック(CFRP) 新幹線 自動車 飼育方法 自動運転
教図	17	自動車 養殖技術 資源 生体認証
開隆堂	21	規格材 金属精錬技術 品種改良 自動車

○安全指導にかかわる箇所

東書	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	40	実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 パスワード

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	15	16	15
(2) 製作品の例示数	41	32	29
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	70	73	99
(4) 技術にかかわる倫理観について取り上げている箇所数	34	25	31